

環境 NEWS (第33回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

第31回環境ニュースで、“広島県の蠣(カキ)の生育が年々良くなってきた”とご説明したばかりですが、ここにきて今年の蠣の不漁ニュースが飛び込んできました。申し訳ございません。

不漁の理由は、例年に無く海水温が高いまま推移したため、塩分濃度が上昇し酸欠の状態が影響したのではないかと推定されています。

九州や東北では際立った被害は無いようで、瀬戸内海のような閉鎖海域だけの現象だそうです。

サカナはある程度移動ができますが、養殖蠣はその場から移動できないので、今はどうしようもない状況のようです。

拡大解釈をすれば、サカナが釣れなくなった理由は、天敵の鶴だけでは無いかもしれません。どうすれば、以前のような釣果に戻ることができるのでしょうか。



資料番号 2

令和7年11月19日
課名 農林水産局水産課
担当者 課長 横内
内線 3609

令和7年度シーズンにおける広島かきのへい死状況について

2 現在把握しているへい死状況

抜粋

(1) 調査方法

出荷を開始している漁協や生産者から聞き取り及びむき身調査により、現在の状況を把握した。なお、聞き取り調査は、出荷を開始している一部の生産者に限られており、養殖期間の長く、平年から比較的へい死割合が高いかき（「ノコシ」と呼ばれる3年養殖かき）についての情報が中心である。

(2) 聞き取った情報（まとめ）

- 9月下旬から10月上旬にかけて大量死が起こった。
- 音戸大橋や倉橋島から東側に位置する海域のかき養殖漁場で被害が大きくなっている。
- ノコシだけでなく、小型のかきも死んでいるという報告もある。
- 一方で棚にかかっている種苗（種がき）に大量死は見られない。
- 二倍体、三倍体に関係なく、大量死が起こっている。
- 垂下連の下側だけ多く死んでいるケースもあれば、上から下まで全部死んでいるかき筏もある。
- 経営的な情報としては、運転資金に対する不安と、将来のかき養殖に対する不安を感じる業者が多い。

(3) 原因

水産海洋技術センターにおいて、国内外の調査研究による論文・報告などから、かきの大量へい死の要因と考えられる事項について検討したところ、高水温と高塩分の環境に同時にさらされた結果、かきが生理障害を引き起こしたと推定されている。

